



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 潮目	寒流と暖流がぶつかる場所は「潮目（潮境）」と呼ばれます。この海域では、親潮が運ぶ豊富な栄養分によってプランクトンが大量に発生し、それを餌とする魚たちが集まるため、非常に豊かな漁場となります。三陸沖はその代表例として知られています。
問2	<b>答え 1</b> 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。	秋田県は全国有数の米どころであり、農業生産額において米が占める割合が非常に高いのが最大の特徴です。単に米だけを生産するのではなく、農業経営の安定のために野菜や畜産なども取り入れた「複合経営」が行われている点も重要です。他の選択肢にあるような畜産特化型（鹿児島県など）や果実特化型（青森県など）とは統計上の数値構成が明確に異なります。
問3	<b>答え 1</b> 秋田県 — 提灯を米俵に見立てた竹竿を操り、五穀豊穡を祈る「竿燈まつり」が行われる。	秋田県で開催される竿燈まつりは、提灯を米俵、竹竿を稲穂に見立てるのが特徴で、五穀豊穡を願う行事です。青森県は「ねぶた祭」、宮城県は「仙台七夕まつり」が有名です。また、「なまはげ」は秋田県の男鹿半島に伝わる伝統行事であり、これらを混同しないように注意が必要です。
問4	<b>答え 1</b> 青森県と岩手県の境界付近を北緯40度線が通り、宮城県と福島県の境界付近を北緯38度線が通る。	緯度は北へ行くほど数値が大きくなるため、東北地方の北側に位置する青森県・岩手県側が北緯40度、南側に位置する宮城県・福島県側が北緯38度となります。この緯度の違いは日照時間や気温の差、ひいては作物の生育状況や冷害の影響の受けやすさといった地理的課題にもつながる重要な情報です。
問5	<b>答え 1</b> 福島県	福島県は東北地方の南の玄関口に位置しており、新幹線や高速道路によって関東地方と強く結びついている。地理的に東京などの大都市圏に近いことから、東北地方の中でもいち早く工業化が進んだ。宮城県は福島県の北に位置し、山形県は奥羽山脈を挟んで西側に位置している。
問6	<b>答え 3</b> 冬の季節風が奥羽山脈を越えて吹き下ろす際、乾燥した空気となるため、日本海側の地域に比べて冬の降水量が少なくなる。	日本の冬は北西から季節風が吹きますが、東北地方の中央を走る奥羽山脈が壁の役割を果たします。湿った空気は日本海側に雪を降らせた後、山脈を越えて太平洋側へ抜ける際には乾燥した風となります。このため、仙台市を含む太平洋側では冬の降水量が少なくなり、日照時間が長くなるという因果関係があります。これが、日本海側の秋田市などと対照的な雨温図の形を作る要因です。
問7	<b>答え 1</b> 富士山型からつぼ型へ	人口構成の変化は、多産多死に近い状態から少子高齢化へと進みます。1980年頃の若年層が多い状態は底辺が広い「富士山型」の特徴に通じ、近年の少子化により子供の数が減り、高齢者が増えた状態は「つぼ型」と呼ばれます。「つりがね型」はその中間の時期（2000年頃など）に見られる形状です。
問8	<b>答え 1</b> かつては田畑が目立っていた場所に、住宅地が形成され郵便局などの公共施設が新設された	山形市北部の時系列的な地形図の比較では、羽羽本線の東側において、1949年当時に広がっていた田畑が2025年には住宅地へと転換されていることが確認できます。また、人々の生活を支える郵便局などの公共施設も新たに書き込まれており、典型的な都市化の進展に伴う土地利用の変化を示しています。選択肢にある「老人ホーム」や「仙山線の新設」は、この地域の具体的な変化を示す地形図の特徴とは合致しません。